

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

全体的に計算量が減少し、解答しやすくなった。

出題の特徴や昨年との変更点

全問題が解答の導出過程を示す問題で構成されている。

図を描かせる設問が出題されなかった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式 (記述)	力学 (衝突・円運動)	物理	衝突によって初速を与えられた小球の円運動を扱った問題。基本的な頻出問題であるので、ミスなく解答したい。	易
II	問形式 (記述・論述)	電磁気 (電磁誘導)	物理	傾いたレール上を運動する導体棒による電磁誘導を扱った問題。 問3では、導体棒にはたらくレールに平行な方向の力のつり合いを用いて解答する。	やや易
III	問形式 (記述)	波 (気柱の共鳴)	物理	閉管の気柱の共鳴を扱った問題。 実験結果を表すグラフから適切にデータを読み取り解答に用いる必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を中心に基本事項を正しく理解しておくこと。また簡潔で正確な文章により、物理現象や法則を説明できるように日頃から練習しておくこと。